



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1934, 21(5): 394-398

ISSUE DATE:

1934-05-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184287>

RIGHT:

かを知らるるであらう。本書中挿入する所の圖版三八〇箇、何れも内外圖書より引用せる重要な説明圖或は最近に完成せられたる研究の結果にして斯學に志すものの必ず知つておかなければならぬものである。即ち本書は高等諸專門學校の生徒諸君や檢定受験者にとりよき教科書たるのみならず、一般地質學、岩石學、鑛物學及び鑛床學を專攻する學生諸君にとつても實用になり與行きのあるよき參考書として推賞する事が出来る。筆者は本誌上に此の好著を紹介することを寔に欣幸とする。(本間)

### ○慶州郡

朝鮮生活狀態其七、朝鮮總督府昭和九年二月

菊版五六二頁、寫眞百頁、膨大な慶州郡の調査報告が出たこの調査に當られた人は囑託善生永助氏である、第一章地誌第二章古蹟傳説、第三章衣食住、第四章風俗習慣、第五章聚落、第六章文化思想、第七章經濟事情、第八章家計調査に分たれてあるが、何といつても半島文化發祥の新羅の古都慶州の現在を調査されたものであるだけに、資料は極めて豊富である、曾遊の慶州博物館には知友諸鹿史雄氏や、大坂金太郎氏などの熱心な研究家が居る。善生氏も亦これらの人々を煩はしたと報告されてゐる、本書主として現在の調査であるから古い方面は簡単に記述されてゐるに過ぎないけれども古國新羅の首都の地であるだけに多くの寫眞をみても猶史蹟としてのゆかしさがあり、風俗や習慣の中にも懐古の情誠に斟からざるものが存する、殊に慶州方面で現在つくられる所の工

藝品即ち窯業、瓦や甕、又は素燒をはじめ、木工品、竹製品蠶細工等に古い形の踏襲されてゐる物は、何ともいへぬ雅味が有り、又羅白唾紙といはれた古い楮紙の優良品の復活の如き見るべきものゝ一である、我等は慶州の古都に餘喘を保つ古い藝術が大に更始して新しい時代の要求に應ぜんことを願ひ、本調査資料の如きものゝ利用の大ならんことを望み、總督府の調査資料として、年々この方面に努力せらるゝことに感激する一人である。(藤田)

### ○長野縣下伊那聚落密度圖

松永勇著 那教育會發行

昭和八年三月に出た同郡聚落分布圖(ドットマップ)によつて之を密度線圖に直したものである、ドットマップでは聚落分布の密度形態が明に表はれてこないので、かやうに改めることによつて地形と聚落との關係が餘程明になる、著者はこの地圖をつくつた等密度線の作爲に關しての一つのパンフレットをつけてゐる、併せて之を見られんことをすゝめる。(藤田)

## 雜報

### ○英國經濟聯盟の本邦商品展示

英國經濟聯盟は最近本邦商品の安價競争が世人の視聽を刺戟する機會に乗じて本邦品粗惡の展覽會をひらき、英國品奨勵をやつたが、場所はウエストミンスターのミルバンクで議會に近い所で、各種

の日本品をあつめて、英國品よりも安いものを陳列した。しかし日本の絹織物・人絹物・工藝品・羊毛製品の如き肝心のものは出品しないで、主として目下問題となつてゐるものだけを並べたに過ぎないが、その品目左の如し。

玩具 セルロイド人形(小賣値六片)、英國旗をあげた天幕に英國軍人(金屬製)、一組(小賣値六片)、セルロイド製金魚釣一組箱入(同六片)、地球儀(同六片)、ゴム製短劍(小賣一片及二片)、其他。

文房具 色鉛筆箱入(小賣六片)、筆入小型木箱(小賣六片) インキ壺入木箱(同六片)、繰出鉛筆タローム仕上(同六片)、石擬硝子製プロッター(同六片)。

綿製品 兒童白靴下一打(一志)、男用短靴下一打(一志九片)、同人絹交織品一打(二志六片)、縮金具付カーキシャツ一打(二志六片)、中釦付カーキ襯衣(二十二志六片)、ネクタイ(人絹四片半)、メリヤス上下一打(七志七片、一組小賣一志)

陶器 コーヒ茶碗、組(小賣一志六片)、肉皿高級品一枚(小賣十二志六片)但しこれと同じ者でコーブランドでつくると原價丈で十二志になるといふ。又

本邦製珈琲茶碗の不合格品を出品して衛生上有害の恐ありといふ宣傳に利用してゐる。

電球 本邦製電球五六種を陳列して使用後一時間で破れたもの、二百時間で廢物となつたものといふ説明をし本邦

品を使用するものは一文惜の百失とのべ、英國製の電球、オスラム、マツダ、エデスワソン等著名の電球名をかゝげて日本品を排斥してゐる。

以上のやうな鹽梅でシガレット・ケース、硝子製置物、箱根細工等を並べてゐるが、いかにも日本品は安くして悪いといふ欠點を巧にさらけてゐるのである、けれどもかうした安物ばかりを出陳して、日本のダンピングといふことを證明し、ロンドンからパーミンガムへ移動陳列をするといふことである。蓋し男の靴下一打が九十二錢、一足が七錢なので、しかもそれは關稅がかゝつてゐるのだから驚くべき事實である。三高教授たる英人エルダー氏さへも、これは無茶だ、日本はあまり安賣をしすぎるといつてゐるのである。

### ○全南海南郡玉埋山の明礬

は至極有望で兵庫縣飾磨郡の淺田氏が約十年前から探鑛して、之を兵庫縣で製造してゐるが、今度佳友と協力して擴張をはかり佳友は技師を派して其無盡藏であることや質の良いことがわかつたのでドイツから技師を雇入れて、七十萬圓を投じ、この鑛石からアルミニウムを製造する試験をして良結果を得た、尙同郡の聲山鑛山や、珍南郡加沙島鑛山もアルミニウムの鑛石として有望視されてゐる。

### ○日本と白耳義の綿業

白耳義ル・ツァール紙は日本綿業の進出に關して論じた、それによると日本綿業の進出で最も憂ふべき影響を蒙つたものはガンの工業である、吾人が

多くの困難を排し辛ふじて戦後の復興に努力せる間に日本は大規模の工場を建設し且其設備を完成した、今から三十年前に日本は單に齒ブラシを輸出したに過ぎざりしに、今日は各種の製品に於て世界市場を侵略し、而も何國も之に對して競争し得るものなきが如くである、日本のかゝる優越的地位を得た理由は單に圓價の下落のみに歸することは出来ない、近々數年間に完成した優秀なる工業設備の力が大きい、又工場には多數熟練職工があつて歐洲に比して遜色のない工場があるにも拘はらず、其社會的施設は百年以上の経歴がある、日本國民の生活要求の程度は極端に低く農業不況の結果地方を去つて工場に赴く女工のうくる日給は僅に五法である、之に反して白國綿業労働者の賃銀は一日三十法乃至四十法である、此外日本政府は工業に對して意を用ひ、租税、社會負擔等によつて徒に工業の負擔を過重ならしめるが如きことがない、然らば白國綿業はどうすべきか、自衛策をどうすべきかといふに、それは果して競争に克てるかどうかといふことになるしかし吾人は如何にして日本の如き大國と商議しうるや、日本に相當の代價を與へて以て妥協を講ずるが如きは英國の如き大國にして初めて爲しうる所であるが、白國ではどうにもならない、試みに白國と日本との貿易をみると對日輸出は輸入に比して遙に多く吾人にとりて有利の状況である、此點は注意すべきことで、輸入割當制度の如きは其效果に於て得失相半するものである、この制度は最近和蘭の實行せる如く精

々或種商品の多量の輸入を阻止するために利用される丈で、國外市場では何等役に立たない。

しかし日本と雖も其生産力を以て全世界の綿布市場の需要を悉く充たすといふことは出来ない、世界の中に尙日本品の進出ないために、白國綿業にとり新なる市場を獲得しうる餘地がないわけではない、白國綿製品の出高は約五〇%減じたが其決定的原因は日本品の競争のみではない、英國はじめ諸國が吾人に對し門戸を閉鎖したのも一つの原因である、就中英國は從來白國に對し直接間接に重要な市場を提供したが今や吾人は何等の代價をも得ずして英國の市場を喪失した然るに英國は磅貨下落によつて白國へ綿糸綿布の輸入をつづけてゐるのである、他方吾人は世界市場で他國の競争にあひ日本からは最も脅威をうけてゐる。白國コンゴールでは關稅障壁をこえて日本品は輸入が益々増加してゐる、これに反し白國コンゴールの關稅引上で白國の輸入は阻止されてゐる。

そこでカン地方としては、とにかく生産費を引下げて日本品に追隨してゆくといふことを考へる外に道はないといふのである。白國の人々の考は正しくして且穩健である、さうして白國は日本への輸出超過を得とし日本が安價な製品を同國に輸入すればそれだけ獨逸や致須國よりの輸入を驅逐することになるから寧ろ欣ぶべきであるとなし、白國の對日貨政策は新しい傾向を示めしかけてきた、黃禍を論じて日本のみを眼の敵にするといふやうなことはないらしい。

## ○葡領チモル島

葡領東印度の小スタンダ列島東端のチモルは東經百二十五度以東が葡領となつてゐる、一九二六年葡領マカオ植民地總督の管轄から離れて獨立の一植民地となつた位で開發は著しく後れてゐる、しかし其面積は我四國に西敵し七千三百平方哩もあるが人口僅に五十萬にすぎず、首府をデیلیー港においてゐる、珈琲、白檀材、コブラ、木蠟が主要輸出品で一九三一年には二百十萬圓程の輸出額があり、輸入八十六萬圓にすぎない、一九二四年以來島の東南のロレー地方に林業署を設けて林業技師をおき、土人の濫伐を防止すると同時に木材挽場をつくつた、ロレー森林はチモルの極東端テツアラより海岸に沿ひてラアウテン附近まで大茂林をなしこの附近の有用立木平均一ヘクタールに千六百五十本と稱せられてゐる、樹種も熱帯だから四十二以上に達し白檀其他の硬質材木が多い又木蠟の産も多い、この地方の土人（スコ族）が時々反亂を起すので開發もおくれたが現在では馴化したといふことである。

## ○南京緞子

南京の緞子邦譯縐子工業は其名を中外に馳せたもので、昔時其の盛大な時代には、この業によりて衣食するもの二十萬口で總人口の百分の四十強にも達したが、こゝ數年來外國貿易の侵蝕と内には政變があり天災があつて倒産者相つぎ失業職工十數萬人に達して前古未曾有の不況に入つてしまつた、そこで目下その救済を考へてゐるが元來支那では廣東、江蘇、浙江、四川の四省が生糸の産地であるから緞

物業もこの四ヶ所を中心として發達したのである、その中にも南京の貢緞は明時代に有名であつて其頃南京と杭州と蘇州には織造太監といふ役人がゐた、清朝になつて織物業は御用商となつた、その中蘇州や杭州に比して南京の織物は最良であつたから京緞といはれ貢緞ともいつたのである、爾來南京の家内工業といふものになつて工場はなく個人の機房から織り出された、近時工場が出來たが發達はしない、原料はすべて國産品である、縦糸は上等品で浙江の海寧、硤石鎮の産を用ひ横糸は太く湖州、新市塘樓産を用ひたが、市價騰貴したために目下は南京や江北の産を使う、染料も國産品であつて純黑色を特色とし、多く秦淮河の兩岸に染屋が住んでゐる、但し生糸の漂白は必清溪、東水關、北銅管の三所でやつてゐる、染色原料は四川の五倍子、安徽省産の槐實、山東の皂莢湖南の茶實油と江西の靛青とを用ひる、無地物が重で模様物は少い。

緞機には一機に三種の職工がある、緞子は地元のものが多く、一日四五尺から三尺を織る、工資は毎疋二十八元から六元まで平均十二元であるから一人一日の勞賃二十仙乃至三十仙といふ低廉である、そこで織手の大部分が轉業するやうになつたから、遠からずこの手工業は消滅するかもしれない。

京緞の販路は、日本、朝鮮、印度、暹羅の各國に出て、毎年數百萬元の輸出がある、國內各省に取次店があつたが政變のために京緞の十分の七、八は完全に停頓してしまつた。

其衰亡の原因は、第一は支那の經濟社會が國際資本主義の

侵略によつて崩解しはじめたこと、一般民間に使用される品物はすべて舶來品の安價なものである外に、國際資本は裕福で、支那で低廉な原料工賃、稅率を利用して原價をさげて売りつけるために、國產品に越かずに外來品のみに偏するやうになつたこと、第二に其國內販路たる滿洲と四川との間に取引が出来なくなつたこと、第三に内地徵稅が過重である上に天災地變を加へ金融梗塞してやがて工業革命に向つてきた其外工賃が高いことや技術の退歩等も有力な原因である。これを救ふ道はやはり保護關稅をかける外に國貨重用をすゝめ製織方法の新式改善をはかるより途がないが、支那人も覺醒しないととも之を古にかへすことは出来ないであらう。

### ○滿洲國に於ける日本使館

所在地左の如し。

吉林省新京——大使館、哈爾濱——總領事館、奉天——總領事館、海龍——總領事分館、通化——總領事分館、新民府——總領事分館、吉林——總領事、敦化——總領事分館、間島龍井村——總領事、琿春——總領事分館、百草溝——總領事分館、局子街——總領事分館、圖們——總領事出張所、頭道溝——總領事分館、新京——總領事、牛莊——領事館、安東——領事館、掏鹿——領事分館、農安——領事分館、鄭家屯——領事分館、齊々哈爾——領事、海拉爾——領事、滿洲里——領事、赤峯——領事、承德——赤峯領事出張所、錦州——領事

以上の配置で滿洲帝國の大凡の要地に分駐してゐることがわかるがまだこれ丈では十分でない、北邊に於ても亦西方に

於ても更らに多數の分館をみるやうにしなければなるまい。

### ○米國の石油産額

一九三三年米國の石油産額は八九八、三九三、〇〇〇バレルで、一九二七年乃至一九二九年の記録につぐ産額である、之を一九三一年に比すれば四七、〇〇〇、〇〇〇バレルの減少である。

一九三三年の産額中テキサスは四四％、オクラホマは二三％、カリホルニアは二〇％、カンサスは五％の産油にかはつた、一九三三年の重要産地左の如し、

テキサス	三九五、九四八、〇〇〇バレル
内東テキサス	一九九、〇六八、〇〇〇
ガルフコースト	六〇、三六三、〇〇〇
西テキサス	五五、一七九、〇〇〇
其他	八一、三三八、〇〇〇
カルホルニヤ	一七三、二三七、〇〇〇
内サンタ・フェ	一八、二七五、〇〇〇
ケツトルマン・ヒル	二一、五九九、〇〇〇
ロングビーチ	二四、八二二、〇〇〇
其他	一〇八、五四一、〇〇〇
オクラホマ	一八一、一八八、〇〇〇
オクラキマシチー	六八、一一八、〇〇〇
セミノール	四一、五七七、〇〇〇
其他	七一、四九三、〇〇〇
ルキジアナ	二四、七二〇、〇〇〇
内北ルキジアナ	九、五八七、〇〇〇
ガルフ・コースト	一五、二三五、〇〇〇